

営大通信

第 48 号

令和 4 年 3 月 25 日

発行 青森県営農大学校興農会
会長 小川 広徳
青森県営農大学校後援会
会長 秋田谷 和智

青森県上北郡七戸町字大沢48-8
TEL 0176-62-3111

令和 3 年度卒業式

3月5日、令和3年度卒業式を挙行之、畑作園芸課程22名、果樹課程8名、畜産課程8名、合計38名が2年間の学業を終え営農大学校を巣立ちました。

新型コロナウイルスに対応し、規模を縮小して行われましたが、保護者出席のもと、卒業証書及び学生表彰の各賞が授与されました。



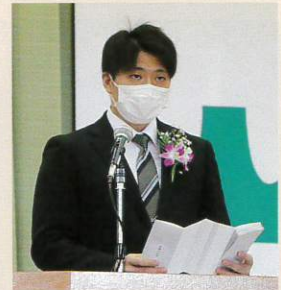
比内校長の式辞

比内校長から、「皆さんが営農大学校で鍛えあげた実践力を遺憾なく発揮し、本県農業、更には地域社会の活性化のけん引役となることを期待しています」と式辞

がありました。

在校生を代表して出席した畑作園芸課程の秋元海慶さんからは、卒業生に対して感謝とエールの言葉が、卒業生代表の畜産課程の安田悠人さんから、「この学校で手に入れた仲間たちとの思い出と、多くの人と関わり培った知識や経験を胸に、社会に出てからも成長し続けていきます」と誓いの言葉がありました。

卒業生は、社会人としてそれぞれの道を歩みますが、本校で学んだことや仲間を大切に、大いに活躍することを期待しています。



卒業生代表の言葉
(安田 悠人さん)

各賞受賞者

- 知事賞 畜産課程 安田 悠人
- 校長賞 畑作園芸課程 加藤 雄己、果樹課程 成田 智美、畜産課程 工藤 友美
- 功労賞 畑作園芸課程 三浦 大祐、畜産課程 澤田 安梨菜、足沢 飛翔
- 精励賞 畑作園芸課程 伊賀 隆成、小泉 隆ノ介、畜産課程 品木 真衣
- 皆勤賞 畑作園芸課程 岩間 義亘、工藤 匡宗、畜産課程 椛本 大稜、今 実央、澤田 安梨菜、品木 真衣、中川 拓光、安田 悠人
- 全国農業大学校協議会長賞 畜産課程 澤田 安梨菜
- 東日本農業大学校等協議会長賞 畑作園芸課程 村岡 葵
- 農業大学校同窓会全国連盟会長賞 果樹課程 中野 大翔
- 東日本農業大学校等同窓会連盟会長賞 畑作園芸課程 加藤 雄己
- 青森県農業経営士会長賞 果樹課程 中野 大翔
- 興農会長賞 畑作園芸課程 戸澤 桃香、毛内 早汰、畜産課程 足沢 飛翔
- 後援会長賞 畑作園芸課程 船木 優杜、果樹課程 秋山 大悟、畜産課程 中川 拓光

卒業生進路状況

(単位：人)

就 農	就 職			研修・その他	合 計
	雇用就農	農業関連企業			
8	30	12	15	3	38

校内プロジェクト発表会・意見発表会

令和3年12月22日・23日に、学生の課題解決能力やプレゼンテーション手法等の習得及び学習意欲の向上を目的に、本校体育館で開催しました。

「プロジェクト発表」では、2学年38名が、自ら課題を設定し、1年間取り組んできた学習の成果を発表しました。今年度は、就農後の経営を見据えた課題や省力化、軽労化等の農業が抱える課題の解決、6次産業化コースの新商品の開発など、農業機械メーカーや企業等と連携した取組もありました。どの発表も分かりやすく伝えるため、表やグラフ、写真、動画などを効果的に使い、データの視覚化を工夫していました。

また、「意見発表」では、1学年の代表学生3名が将来の目標など、農業に対する熱い想いを発表しました。

審査の結果、「プロジェクト発表」では、最優秀賞が1課題、優秀賞が2課題、努力賞が3課題、「意見発表」では、最優秀賞、優秀賞、努力賞が1課題ずつ選ばれました。最優秀賞、優秀賞受賞者は、本校の代表として、東日本ブロックのプロジェクト発表会・意見発表会で発表しました。



発表の様子



発表する学生



図表を用いて分かりやすく説明



各賞受賞者の面々

<プロジェクト発表受賞者>

区分	課程名	氏名	課題名
最優秀賞	畜産	澤田安梨菜	肉牛糞の堆肥化及び敷料への活用の検討
優秀賞	畑作園芸	三浦大祐	にんにくの品質向上を目的とした肥料の比較検討
	畜産	足沢飛翔	乳牛飼養における農業残渣エコフィードの利用価値検証
努力賞	畑作園芸	村岡葵	サイネリア鉢花栽培における開花期分散
	畜産	工藤友美	青森シャモロックの卵を使った加工品開発
	畜産	安田悠人	ハズバンダリートレーニングによる乳牛の調教

<意見発表受賞者>

区分	課程名	氏名	課題名
最優秀賞	畑作園芸	畑公子	6次産業化における将来の展望とインスタグラムを活用したマーケティングについて
優秀賞	果樹	倉館蓮	生産者の経済性追求
努力賞	畜産	沢目桃香	私の夢

東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会、そして全国へ!

令和3年度東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、質疑応答なしの記録動画方式により開催され、本校からは校内プロジェクト発表会・意見発表会で最優秀賞と優秀賞を受賞した5名(2学年3名、1学年2名)が、発表動画の撮影に臨みました。

審査の結果、意見発表の部で果樹課程1学年の倉館蓮さんが優秀賞を受賞し、東日本ブロックの代表として、全国農業大学校等意見発表会に進みました。

全国大会は、令和4年2月2日にリモートで開催されました。東日本ブロックと同様にカメラ前での発表ですが、質疑応答がリアルタイムで行われるため、緊張感は一段階上へ。そのプレッシャーにも負けず、「生産者の経済性追求」と題し、農業を発展させるために目標に向かって日々研鑽していくと堂々と発表し、見事特別賞(農業大学校同窓会全国連盟会長賞)を受賞しました。意見発表での全国大会入賞は営大初の快挙です。



校長より賞状授与された倉館さん

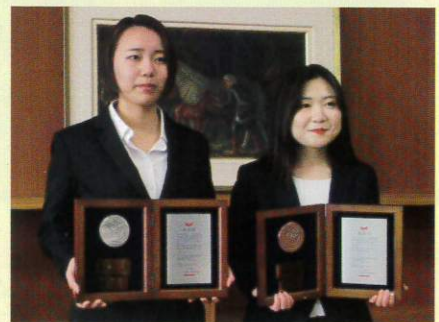
ヤンマー学生懸賞論文・作文「作文の部」で銀賞・銅賞を受賞

第32回ヤンマー学生懸賞論文・作文の「作文の部」において、全国478点の応募の中から、果樹課程1学年の北川愛さんが銀賞、畑作園芸課程1学年の畑公子さんが銅賞を受賞しました。

北川さんは、「私がつくった商品で青森県を盛り上げ隊」のタイトルで、りんごを使った商品を作り、本県の魅力を国内外に伝えたいという熱い想いをまとめました。

畑さんは、「女性起業家を目指して」のタイトルで執筆し、将来就農したときにSNSを活用して新しい農業に挑戦したいという決意表明となりました。

4月からは2人とも6次産業化コースに進みます。夢の実現に向け、これからも頑張ってください!



北川さん(左)と畑さん(右)

1学年恒例、冬の資格取得ラッシュ

本校1学年では、農閑期2~3月に「ガス溶接技能講習」、「アーク溶接技能講習」、「日商簿記検定3級」、「危険物取扱者(乙種第4類)」、「車両系建設機械(整地・運搬等)運転技能講習」の資格取得が恒例となっております。今年度からは、11月に行っていた「フォークリフト運転技能講習」を翌年3月に行うこととなり、学生はますます忙しくなりました。

「日商簿記検定3級」や「危険物取扱者(乙種第4類)」は合格率が低く、猛勉強の上でやっと合格できる取得難易度が高い資格です。

資格取得により、就職が有利になることは当然ですが、就農・就職してから新たに資格を取りに行くのは容易ではありません。そのため在学中に積極的に資格取得に向けて取り組んでいます。



アーク溶接技能講習



フォークリフト運転技能講習

新型コロナウイルスに対応したリモート講義の導入

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、本校でも感染拡大防止に向けた取組を行っています。

その中のひとつとして、令和3年度から、Zoomなどを活用して外部講師の講義を行うリモート講義を取り入れました。対面で行う授業を最も大事にしていますが、学生の学習機会確保の観点から、非常に効果を発揮しています。

講義によっては、通信が多少途切れるなどの不具合が発生することもありましたが、学生からはおおむね良い反応が得られました。2学年の最後の講義は、新型コロナウイルス感染症で在宅による自主研修の時期を早めたこともあり、自宅と学校をつないで講義を行いました。あくまで非常時の取組ではありますが、新しい選択肢として取り入れられると感ずることができました。

新型コロナウイルス感染症が終息し、対面での授業を気兼ねなく行うことができることが第一ですが、これまで以上に遠隔地の講師にも声がかかりやすくなることから、今後もリモート環境を効率的に活用する方法の検討を続けていきます。



外部講師からのリモート講義



学校から各家庭へ配信

生活棟改修、農場管理棟・農具庫完成

現在、本校では、「営農大 学校機能強化アクションプログラム」に基づき、平成30年度から老朽化した施設等の再整備を行っています。令和3年度は、生活棟の改修工事と、農場管理棟、農具庫の新築工事を実施し、3月に完成しました。

生活棟の完成により、女子寮と管理研修棟とが渡り廊下でつながり、屋内で行き来できるようになったり、4月からは新しい厨房・食堂での給食の提供と男子風呂の使用が再開されます。

農場管理棟には、果樹現場教室、簡易実験室、トイレ、作業員休憩所が整備され、農具庫は農業機械の大型化に対応するため、高さ4mのシャッターと4.5mのオーバースライダーを設置しました。

なお、令和4年度は牛舎の新築と農具庫ほか2棟の解体を行い、その他の実習施設等についても、令和8年度まで順次、改修・解体工事等を実施していく予定となっています。



農場管理棟



生活棟



農具庫